

1月22日、クルド・イスラーム連合バハーウ・ツ＝ディーン事務局長は以下のとおり述べた。

(1) (政党の概要) イスラーム連合は、これまで社会福祉活動をしてきた経験を基盤に、94年に政党として活動を開始した。その目的はイスラームの価値観を社会に広め、女性、子供から年配者に至るまで、人間としての価値を拡大し、経済・政治に至るまで、あまねくイスラームの価値を浸透させることにある。すべてのイスラーム連合の活動は、現生における人間のためのイスラームにある。このような問題意識を通じ、クルド社会にける政治的・社会的・経済的・文化的問題を解決することを志向する改革政党なのである。

(その他のイスラーム系政党との差はどこにあるのか、との問いに対し、) イスラーム連合は、他のイスラーム系政党と宗教に対する解釈が異なり、必ずしも伝統にこだわるだけではなく、現生における改革を目指している。また、ほかの政党と異なり軍事部門を持たず、従って民兵も有していない。

(慈善活動は行っていないのか、との問いに対し、) 我々は50年間にわたり、さまざまな慈善活動を実施してきており、寄進された財を元に、病院、医療、救急活動等を広範に行っている。

(2) (イスラーム連合がクルド自治政府与党連合から距離を置いたのはなぜか、との問いに対し、) 2005年の選挙にあたり、我々は立場の異なる政党と距離を置いた。我々は民主主義を欲している。

(3) (米国の新政権下で変化は起こるのか、との問いに対し、) 自分は昨年9月、デンバーの民主党大会に参加し、「変化」の主張を直接聞いた。オバマ大統領はブッシュ政権の過ちを正し、内政・経済面はもとより、国際社会における米国の信頼回復に努めるとしていた。オバマ政権はイラクに対する政策についても変更し、正しい方向に修正するであろうが、拙速な撤退は望ましくない。

(4) (イスラーム世界各地でのイスラーム運動の進展と比較して、イラクのクルド地域ではイスラーム運動は力を得ていないようであるが、との問いに対し、) イスラームへの呼びかけを行う運動は長期的なものであるが、イラクではいまだに日が浅い。民主主義とイスラームの共存は可能である。他方で、イスラーム運動は、他の政党と比較して、最も民衆に近いところにある。

(5) (他のイスラーム諸国との関係如何、との問いに対し、) 複数政党制を敷くトルコとの関係は良好である。また、隣国として重要なイランとの関係も重要である。

(サウジから支援が来ているとの話もあるが、との問いに対し、) それはどこかの政党が流しているデマである。

(6) (クルドの将来) 連邦制が望ましく、独立は不可能である。2003年以降、我々は独立した自治区を維持しているが、政府はわれわれにクルドの権利を認めていない。憲法第140条を早期に適用し、住民投票を実施するべきである。

(憲法第140条実施の遅れは、技術的な理由か、政治的な理由か、との問いに対し、) 技術

的ではあり得ず、政治的なものである。石油法をめぐる議論にしても同様で、すべての人々に平等な権利が認められるべきである。

(7) (イラクの状況) イラクにおいては一党独裁、もしくは一人だけの手に権力が集中してきた。それが終わったのもつかの間、米国による占領状態が続いた。これらは全く普通ではない状況である。そのような中でイラクは、クルド、スンニー派 (アラブ人)、シーア派 (アラブ人) に分割された。特に、スンニー派 (アラブ人) は政権に参加できずに過激化した。しかしながら、現在イラクは修正の方向に向かっている。

(マーリキー首相の設立した支援評議会等、問題も残っているのではないか、との問いに対し、) マーリキー首相の試みは正しいものではなく、失敗することになるであろう。